

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

年未年始の雪不足は各産業関係者に大きな影響を与えた。今後の温暖化の影響を推察すると年未年始に期待する経営は増々厳しさを

増していくのだろう。新年の5日には、里が本格的な雪景色に。除雪車初出勤の賑やかさは、待ちわびた楽しさを伝えている響きだ。

今年の初夢は、2020東京オリンピック・パラリンピックへの関心が深かったのか

オリンピックに関する夢だった。2026年札幌冬季オリンピックの滑降競技は、白馬村

八方尾根の滑降オリンピックコース。長野オリンピックの開催当時とは異なり、天候にも

恵まれタート地点は、既存スキー場最上部で熱戦が繰り広げられていた。夢から覚め、1

972年に開催された冬季札幌オリンピックの男女滑降競技会場の恵庭岳のその後が気になり情報を集める。

開催するため自然林を幅20〜60m伐採し、男子コース2636m、女子コース21

再びオリンピックへの夢を抱く事も大切だ

08mを造成し、ロープウェイや競技本部、ヘリポートなども設置

されたが、国立公園内で自然保護の見地から大会終了4カ月後からコース跡地の復元工事が実施されたが、本来この地域に無かったア

カエゾマツなどが植林され、コース跡は、周囲の天然林とは明らかに異なっているとの情報は、自然復元への困難さを語っているのだ

ろう。札幌冬季オリンピック招致の開催概要計画案は、滑降・ス

パー大回転などのアルペン5種目の会場をニセコ地域で行う事を内定との情報だが、既存

には国際基準の滑降コースは現在なく、新たな造成が求められるだろうとの声も聞こえてくる。

これまでのオリンピック開催は、都市立候補が原則だったが、2020東京オリンピックでもマラソン競技は札幌での開催が内定し準備が進められている。また長野市のボブスレー・リュージュ

パーク施設の札幌オリンピック開催時の使用も想定されている状況。新たに北海道地域

内で、滑降競技施設を造成するに当たり、大会経費の軽減や自然保護対応など難題も予想

され、白馬での既存施設を利用した滑降競技の開催は、完全否定できないのかなと思ってしまう。だがスキー発



八方尾根スキー場下部の現状に対応できる知恵が求められている

展には、すでにパウダースノーの聖地としては世界的に名が知れた。渡ったニセコが日本を代表する滑降コースを有するスキーエリアにあってほしいと願う事が大切なのだろう。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)